

認知症カフェ支援者育成研修と 認知症介護者の集合研修

一般社団法人 久留米健康くらぶ
〒830-0023 福岡県久留米市中央町35-1

助成事業の概要

◇認知症カフェ支援者育成研修

1. 目的：
認知症カフェを平日毎日円滑に運営する為に、登録をされた支援者の方々に認知症の正しい理解と認知症本人との接し方等を学ぶ事により、認知症本人や予備群の方々の進行防止に寄与する。

2. 対象：
一般市民・専門大学生・運動指導士等登録された支援者

3. 日時：
ほっとカフェサポーター研修会及び交流会として、4月～6月で各1回、10月・12月・3月の年6回開催

4. 内容：
一方的な研修会から気軽な交流会を主体に運営し、様々な意見交換が出来た

◇認知症介護者の集合研修

1. 目的：
認知症本人を介護している家族の介護負担軽減と接し方を学ぶ事での本人の進行防止

2. 対象：
認知症カフェ利用者の認知症家族介護者

3. 日時：
毎月1回（第1木曜日14時～16時）で実施

4. 内容：
①参加者毎に1人1人に1ヶ月間の認知症本人の経過状況や変化及び介護者としての悩みや改善等をお聞きしていく
②都度、講師からの質問やアドバイスを頂きながら次の1ヶ月間に取組む事を確認していく

事業の成果

◇全体として

○30年度の新規会員31名の動機では、今年度は利用者の紹介が14名になり、丸4年間の積み重ねで口コミの成果が現れてきた

○又、前年は娘さんがインターネットで当ほっとカフェを知り、連れて来られた件数が上記利用者の紹介と同じ9件であったが、今年度は4件で、少し減ったがこの4月に入っては3件もあり、HP等インターネットで検索して来られる事も増えている

○全体の支援体制（別紙）が、22団体約60数名で継続して支援を頂いており、更なる拡大も検討中

◇認知症カフェ支援者育成研修

・運動指導士・一般市民サポーター・看護学科の学生等を対象に4年間実施してきて、認知症という病気を正しく理解し認知症本人への接し方や困っている家族への対応が重要である事が認識で

きた

- ・特に学生は、4年間の中で4人が卒論のテーマに取り上げ、就活の面談（ボランティア体験で記入）で大いに役立ち、実家の家族への接し方の改善にも繋がっている
- ・一般市民のサポーターが、余り増えてなくてサポーター不足となり、来年度は、利用者の中でお元気でコミュニケーション能力の高い方を利用者サポーターとして8名起用して、育成研修も参加して頂いて強化していく事になりました

◇認知症介護者の集合研修

- 別名“笑進の会（介護者の集い）”として、2年間毎月開催し、下記成果となりました
- ・一番の目的は、介護者の負担軽減でありお互いの悩みや苦勞を話し合う中で月1回の例会が楽しみとなり、認知症本人への接し方を学び、家族の穏やかな日々の生活に大きく寄与してきています
 - ・特に初めて参加された方は、1人で孤軍奮闘の傾向にあるが、同じ仲間意識により連帯感と接し方の改善を通じて、様々なインフラ（行政・介護制度の利用等）を知り、介護の改善に繋がっている
 - ・特に男性が、奥様を介護していく事は大変で介護者のプライドも含め簡単ではないが、日常の怒りが先行していた事例が、確実に穏やかな対応に変化し、お互いの感情緩和に繋がっている
 - ・当ほっとカフェは、要介護1～要支援・軽度の方が多く、最初だからこそ早期発見・早期対応が重要で、老々夫婦や1人住まいの高齢者が、年だからと周りが気がつかずに進行している現状が、多く見られ、その為の当認知症予防カフェ（ほっとカフェ）の役割や責任を痛感しています

◇来年度に向けて

- ・今迄、本人含めて複数の家族相談会や介護者の

集いを実施してきましたが、特に初期やMCIのご本人のサポートが必要となり、来年度は『喜ばな集い』として当事者本人を対象に実施します

■成果の広報・公表

- ・平成30年度より、久留米市の認知症カフェ一覧（現在6店）のホームページがスタートできた事が最大の成果であり、その資料を市内各地の関連団体や各介護事業所に置いて頂き、それを見た方々の問い合わせや体験そして入会が促進できた
- ・平成30年9月に、久留米市三潴総合支所の高齢者の会：尚寿会（約220名）主催の『認知症予防セミナー』の講演依頼を頂き、地域で取組む認知症カフェの現状と予防の必要性をお伝えした特に平成30年度では、各校区のコミセンの老人会や女性の会での講演依頼もあり、今迄の取組の成果が着実に広がり、2019年8月にうきは市の生涯学習からも約180名対象の講演依頼も決定した
- ・平成31年3月に支援団体の中の専門家メンバーや上記一般サポーター及び利用者の集まりで1年間の活動成果を発表し、2019年度での更なる活動の理解を深め支援継続を頂く事になりました

■今後の展開

- ・平日毎日の運営で丸4年を経過し、2019年度でのモデル版認知症カフェの完成を目指しています
- ・特に2019年4月に、医療法人と介護事業者との3者協働での「久留米認知症カフェを広める会」を発足させ、11月には「認知症カフェ」の先駆者：武地一先生を久留米にお招きして、福岡県第1回認知症カフェ交流会の開催が決定し、2020年

度以降での県内各地区でのモデル版確立と共に更なる普及拡大を促進予定です

・現在 22 団体約 60 数名の支援体制（専門家・市民ボラ・専門学生等）を更に充実しながら、認知症本人や困っている家族そして予備群や心配な方々の進行防止・早期発見・予防を目指して参ります

・その為には、当助成金事業である①認知症カフェサポーターの育成②困っている介護家族への支援そして 2019 年度は③認知症当事者の集いもスタートさせ、元気な高齢者の集まりの健常者からデイサービスを利用するまでの空白期間を埋める居場所として、全国の認知症カフェのモデル版を目指して参ります

☆貴団体の助成のお陰で、4 年間の活動が着実に進化してきており、誠に感謝しています

2025年問題、医療費・介護費の削減、認知症になっても安全安心な町づくりを目指しています
今後ともご指導ご支援を宜しく申し上げます